

「都をどり」と「勝ち神詣で」 ツアーレポート

「勝ち神」様に選ばれた21名の物語

それは、命がけの「鶴の一声」から始まった・・・

八坂神社の勝ち神詣でを終えた私たちは、「都をどり」の会場である祇園甲部歌舞練場に向かいます。途中、一力の前をとおり花見小路を歩いていると一人のご婦人が犬を連れて散歩に出かける姿が見えました。このご婦人の正体は後ほど説明するとして、私たち一行はゆっくりと歌舞練場に到着しました。

4月1日から1ヶ月間行われる「都をどり」は連日の満席です。今回のチケットは一力さんに用意して頂いた席ですが、さすがにチケットの確保には相当困難しました。ですからこの21枚のチケットを手に入れた方は本当に幸運です。そして、予定通り12時30分からの本日第1回目の公演が私たちの席です。

公演が始まる前に、芸妓さんの點前、ひかえの舞妓さんを拝見し、お茶を一服頂きます。このお茶席、本日一番乗りです。一番初めのお點前は二人とも大変緊張している様子でした。その正客、次客を務められたのは大和古流家当主、ご次男のお二人でありました。私たちもこの本日一番のお茶を頂けたことが私たちのはじめの幸運です。

そして、このお茶席に一力の女将さんがお出迎えされたのです。話によると、朝一番で一力の女将さんが歌舞練場にいるのは本当に珍しいこと。周りの人は一様に驚いていたとか。「大事な21名のお客様がいらっしゃるから」と女将さんからありがたい言葉を頂いたのです。



祇園甲部歌舞練場にて

點茶

まめ鈴（右）、若奈（左）

実は先ほど花見小路で出会ったご婦人がこの女将さんであったことを後で気づきました。

毎日相当忙しい中を、私たちのために歌舞練場にお越し頂き、福を運んで下さったのです。

さて、いよいよ「都をどり」のはじまりです。

第一声は「みやこをどりは～ よ～いやさぁ～」のかけ声で始まります。

なんとこの声は私達が鼻唄する「君鶴さん」の声ではありませんか。君鶴さんは地方さんで三味線を弾いています。実は1月の東海本部七福神の折もたん熊北店の宴にて三味線を弾いて頂いたのです。そして本日の私たちの席は何と君鶴さんから正面の席でした。

実はこのかけ声、前日私たちがこの席に来るのを知った君鶴さんが、21名の当主ご一行さまのために特別に、並み居る強豪を押し分けてゲットして披露してくれた特別なことでした。



三味線を弾いている君鶴さんです。

右は都をどりに出演していた舞妓の小扇さん、豆ちほさんです。

この日の夜の一夜の宴にて。

このかけ声から都をどりは始まりますので、ここから始まるすべての公演は私たちのための公演ということになります。すべては勝ち神様の流れの中に私たちは身を置いているのです。

この21名が勝ち神様を味方につけた瞬間です。

第1回祇園特別講演始まる・・・

16時から、祇園の元お茶屋の富月さんで、特別講演会が開催されました。

友常ご当主のお話から、徐々に明らかになる本日一日の意味を伺い、本当に特別な勝ち神様の力を感じずにはいられませんでした。

特別講演会は初めて「祇園」にて開催した意味も大きく、この祇園の町にどんな歴史があるのかも改めて伺い、大きな見えない力に守られていることを感じました。

今回の講演会のテーマは舞い込んで来る運を「縁」にしなければならないこと、そのために「むすび」を行うこと、を学びました。

出会い頭の運を追いかけるのではなく、「縁」が大事であること。縁を結ぶことで、縁と勢いを頂けること。このことをしっかりと腹に収めた講演会でした。

詳しくは祇園特別講演会CDをお聴きください。

今回の講演では、大和古流次男満利さんに竹寺での儀式の心境も語って頂きました。

幸運な参加者・・・「残り福」はやはりあった！

今回のツアーで最も大きな幸運をつかんだのは京都市に住むWさん。

締め切り後の申込みであったため、チケットが確保できませんでした。しかしそれでも、特別講演の参加のみを申し込まれてきました。当日「勝ち神詣で」から参加できることになり、結局なんと歌舞練場でチケットを確保できました。

「待っていては何もつかめない。身を運んでこそ、勝ち神様は味方になってくれる」ことを実感できた事件です。

勝ち神様との「縁」を使える「ちから」にかえた・・・京都の宴

風情のある建物の中で、伝統的な料理を味わうことができました。

友常当主が次男満利さんに技を伝える姿を拝見でき、貴重な体験になりました。

そして、「都をどり」に出演していた舞妓さん（小扇さん・豆ちほさん）と地方の君鶴さんとの面会です。舞込む儀式のあと、都をどりのパンフレットに千社札が貼られ、参加者は「見えないちから」を頂きました。破格で特別な時間を過ごしました。

「勝ち神詣で」その2

翌日は、建仁寺で摩利支天様を参拝しました。

その後、友常ご当主の特別な計らいで、円通寺にて、5月の儀式の話に同席を許されました。円通寺ご住職の並々ならぬ覚悟を感じ、次男満利さんの役割の大きさ、友常ご当主の次男に対する思いの深さを感じました。

昼食は京都名物「サバ寿司」の「いづ重」さんです。何と「ぐじの汁」を頂きました。これも絶品です。私たちを待っていていたかのような料理に本当に感謝です。

この日最後は念願の「高台寺」です。今回は破格中の破格で、私も何が起こるか期待でワクワク致しました。「勝ち神に愛される方法」で私が最も気になっていた「三面大黒」と出会えるかもしれないからです。

圓徳院に到着し、いよいよ「三面大黒」とのご対面が実現できる・・・

ここからはご報告できません。何故なら、本当の本当は????だからです。何れご当主から本当のことを伺える機会を頂けるのではないかと考えております。その時は東海本部講演会でお願いしたいと思います。

何れにしても2日間のツアーは大変実り多いものとなりました。

参加された皆様本当にお疲れ様でした。

春の舞い込む企画 主催者より・・・ 一回きりの人生を使いきる

今年の都をどりも残すところわずかとなりました。今回幸運にも参加できた方、残念ながら参加できなかった方、このレポートをご覧になりどのように感じられたのでしょうか。

すでに22日は過去のものとなりました。あの瞬間に身を置いていたという事実は残りますが、それを「今の今」どのように活かしているのでしょうか。

時間は本当に驚くべき早さで過ぎ去っていきます。私たちは短い人生、一回きりの人生だと本当に真剣に思っ毎日を生きているのでしょうか。

友常当主は講演会の中で、「勝ち神にはうしろ髪はないのです」と仰います。即断・即決・即効でいかなければ、後悔する人生になりかねません。

今回のツアーは、全て先陣を切ったことで「勝ち神」を味方につけることができました。先陣を切らなければ何も生まれない、どんどん疲弊していく現実です。勝ち神も疲弊している者には力を貸してくれないので、さらに落ち込んでいきます。

私は、どんどん失われていく日本の伝統や文化に危機感を感じずにはいられません。一人でも多くの方が「ほんもの」に触れ、日本の国柄を大切にしていける心が必要だと思っています。そんな思いから、大和しうるわし東海本部の活動を始めました。

京都を訪れるたびに、我が国の文化が滅びていく寂しさを感じます。京都は日本が誇る最高かつ唯一の文化です。その文化を守っていけるのは私たち日本人だけです。

都をどりを鑑賞しても、「京舞」がわからなくなっている現実です。このまま生きていけば私たちにはその意味を誰も教えてくれません。誰にも教えてもらえないことをどうやって次の世代に伝えていくのでしょうか？

今私たちにできることは、日本が誇る文化・伝統を一つでも多く体験し、本当の価値・意味を一人でも多くの日本人に伝えていくことではないでしょうか。是非、皆様のご理解とお力添えをお願い致します。私たちの良き力と勝ち神様の良き力を結びあう「ち・から」こそが疲弊する今の日本を救う大きなうねりになると信じています。

5月は変わらぬ色の「かきつばた」の咲く季節です。京都・先斗町では「鴨川をどり」が始まります。次の企画をたてています。今こそ私たちの国を私たちの手で守っていく時です。ご希望の方は大和しうるわし東海本部の柴田までお問合わせください。

5月の講演会(5月23日(土))を予定しております。
ありがとうございました。

大和しうるわし東海本部 一步株式会社 柴田 肇